**高校　地理総合　学習指導案**

**県立愛川高校　２年生　対象**

**作成者氏名：大野想二郎、大橋優太、川畑航星、楠本悠翔**

**１．単元**

**開発の歴史と生活文化の関わり―ラテンアメリカー**

教科書：地理総合　出版社：帝国書院　宗教・歴史４　頁：142～147

**２．単元目標**

１）ラテンアメリカではどのようにして多文化社会が形成されたのかに興味を向けること。（関心・意欲・態度）

２）ラテンアメリカについて考える中で、他地域や過去の事象とのつながりを考えようとすること。（地理的な見方・考え方）

３）様々な資料に目を向け、それぞれから読み取ることができる内容と問いを結び付けること。（地理的な技能）

４）ヨーロッパやアフリカの人々の入植とブラジルの多文化社会に関して、知識を得たり理解したりすること。（知識・理解）

**３．指導上の立場**

１）生徒の実態

・ペルー人の生徒をはじめ、出身国や使用言語、信仰する宗教の異なる生徒たちが共存している。

・在日外国人として愛川高校に通っており、慣れない日本語を中心に教育を受けている。

・中にはアルバイトを経験している生徒も含まれている。

・サッカーに興味を持つ男子生徒が数人いる。

・資料の読み取りでは、資料の背景的な部分ではなく、視覚情報をそのまま捉える生徒が多いと考えられる。

２）単元内容

ブラジルにおける文化や生活は他国の影響を受けながらどのように確立されてきたのかについて、歴史的な観点から考察を図っていく。その際、クラスの生徒の発言や対話を促し、自国並びに日本の文化や生活との違いを考察できる機会にする。『ブラジルではなぜ先住民が少なく、アフリカ系が多いのだろう』という問いのもと、考察を深めていく。

**４．本時の指導計画**

**１）目標**：サッカーをはじめとした身近な事象から世界の国々、主にヨーロッパ・アフリカの国々とブラジルの関係を考察していく。

**２）評価基準**：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識･技能 | 思考力･判断力･表現等 | 学びに向かう力･人間性等 |
|  | ・南米の国々、とりわけブラジルの多文化社会と、植民地化の歴史的な繋がりを理解している。・『ブラジルではなぜ先住民が少なく、アフリカ系が多いのだろう』という問いを解決している。 | ・ブラジルの国々と他大陸の国々との関連を考察し、多側面から捉えた長期的な結びつきを表現している。・多種多様な資料から必要な情報を読み取り、問いと結び付けて考察をしている。 | ・ブラジルを中心とした多文化社会の形成に興味を持ち、主体的にそのルーツを探求しようとする。異文化理解に関心を持ち、日本や自らの出身国における多文化社会形成について想像しようとする。 |

**３）本時の指導計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **〇学習内容、・学習活動** | ○指導上の留意点 ・配慮事項 | **評価の観点** |
| **【導入】（１５分）**・写真から読み取れることを発言する（５分）〇ブラジルのサッカーを題材に、生活文化の特徴やルーツに関心を向ける。〇カポエラの特徴から、なぜそのような文化が生まれたのかに関心を向ける。〇資料読み取り（図１）→南米における、ブラジルの他国と比較した構成について（10分）①ブラジルの特徴をよみとり問とする『**ブラジルではなぜ先住民が少なく、アフリカ系が多いのだろう？』****【展開】（３０分）**〇問の前半「ブラジルには先住民が少ない」ことに関して目を向けていく。〇資料読み取り（図２）→ブラジルの先住民人口の変化』　変化量と時期の両方を読み取る。個人ワーク（5分）〇資料読み取り（絵画「1500年ごろの先住民の生活」読み取りポイントは①森林環境②ヨーロッパ人の指示のもと先住民が荷物を運んでいること③ヨーロッパ人が銃を持っていること。主として教師の解説により理解する（3分）〇問の後半「アフリカ系が多い」ことに目を向けていく。〇資料読み取り（絵画「奴隷の乗船、農業労働」）先住民の絵との共通点や相違点に目を向け、ヨーロッパ人によって奴隷がアフリカから連行されたことを理解する。（２分）〇資料読み取り（図３「1514～1866年に連行された奴隷の分布」）。①奴隷はアフリカからアメリカ東側に連行されたこと②ブラジルとカリブ海に多いことを読み取る。個人ワーク（5分）〇ブラジルとカリブ海に多く、アルゼンチンなどには少ないことを確認し、なぜブラジルやカリブ海に多いのかを考える。（2分）〇資料読み取り（絵画「サトウキビ栽培における奴隷の労働」）生じた疑問の解決を図る活動。サトウキビ栽培に目を向け、奴隷がブラジルに連れてこられた意図を理解する。（2分）〇資料読み取り（フィリピンとベトナムのサトウキビジュースの写真）サトウキビ栽培がどこで行われるのかを生徒の出身地の環境から推測して考える。（3分）〇資料読み取り（図４　「気候帯地図」）サトウキビは熱帯で栽培されること。ラテンアメリカではカリブ海とブラジルが熱帯にあたることを理解する。〇ブラジルにアフリカ系が多い背景として、サトウキビや熱帯との関係を理解する。（8分）**【まとめ】（５分）**〇穴抜きの文言を用意し、本時の授業内容をまとめる。 | ・ブラジルがFIFAワールドカップで５回の最多優勝であることを紹介し、ネイマールなどの選手のテクニックについて発言させる。・ネイマールのドリブルには、独特のリズムがあり、それが左右に身体を揺らす「ジンガ」というリズムであることを紹介する。・カポエラの写真から、楽器の演奏があることや、足を使った動きがあることを読み取らせる。・これがダンスであり、かつ格闘技であることを紹介し、その誕生の背景を考えさせる。・解説を示し、奴隷とのかかわりを示す。・公用語の凡例や円グラフの読み取り方を丁寧に説明する。アルゼンチンの円グラフなどを使って円グラフの読み方を指導し、国ごとに出自割合が異なることに気づかせる。・ブラジルはほかの国とどんなところが違う？などと問いかけて特徴を探求させる。ペルーに先住民が多い（ブラジルには少ない）、ブラジルにはアフリカ系が多い、の２点を共有させる。・先住民という言葉の意味を、多言語教材で確認したのちに、グラフ横の写真で事例を示す。・グラフが、1500年つまり523年前の古い時代の人口の変化を示したものであることを説明し、横軸と縦軸の意味、グラフの点や線の意味を丁寧に説明する。・説明したのちに生徒に読み取り作業させる。グラフの読み取り方等、手詰まりになっている生徒がいたら個別に指導。・作業後、生徒に回答を発言させる。・答え合わせののち、生徒が見出した時代に何があったのかを予想させる。・何がみえるかを問いかけて、森林環境や労働、先住民とヨーロッパ人の関係に注意を向かせる。「先住民の人はどの人？何をしている？」「白い服を着た人はどんな人？何をしている？」・「奴隷」に関する多言語教材を提示→学習活動における重要なキーワードになるため、丁寧に用語の意味を確認する。・気づいたことを発言させ、絵画中の服装や足の鎖、船上の様子への着目を促す。・1514年は、先住民が減った時代と重なること。矢印の太さや〇の大きさが人数の多さを示すことなどを解説する。・机間巡回しながら、地図の読み取りとワークシート記入を個別に指導する。・答えのスライドを提示し、確認させる。その際に、アルゼンチンやアメリカにくらべてブラジルやカリブ海の島々にはかなり多くの奴隷が来たことを強調し、なぜ両地域に多いのか、という問いを提示する。・絵画のなかの作物がサトウキビであることを解説する。馬に乗ったヨーロッパ人は農園で働いていないことに注意を向ける。・ブラジルやカリブ海では多くのサトウキビが栽培されて、奴隷が働いたことを解説する。・どうしてヨーロッパで作らないで、ブラジルなのか。サトウキビはどんなところで作られるのか、という問いを与える。・フィリピンやベトナムの生徒に、写真を説明させる。カザフスタンの生徒に故郷にあるかを問うなど、生徒の母文化から、サトウキビ栽培環境を考えさせる。・図４が、年間の気温や雨をもとに、気候をわけた地図であることを解説する。・赤やピンクで示したところが年中暖かく雨が多い「熱帯」であることを解説する。・奴隷が多いカリブ海もブラジルも、熱帯に位置することを解説する。・なぜブラジルにアフリカ系が多いか、説明できる？と問いかけて発言させる。・スライドを提示し、ワークシートに記入させて理解の定着を図る。 | 態･サッカという生活文化のルーツを考えることで、その社会的背景に関心を持つ。技･円グラフを正しく読み取り、他国との比較でブラジルの特徴を答えることができる。技･グラフを正しく読み取り、問いに答えることができる。態･先住民の人口が急激に減ったことと、その時期の出来事に関心を持てる。思･絵画に書かれた様子から、図２の歴史的背景を考察できる。知･奴隷という言葉の意味について理解する思：先住民と同様に強制されながら、海を渡ったことを理解する。技：資料を正しく読み取り、問いに答えることができる。思：ブラジルがアフリカからの奴隷による影響をいかに受けているのか、根拠とともに理解できる。態：農業労働の具体的な状況を絵画から読み取り表現できる態：サトウキビの栽培環境を身近な事例で考え、クラスの生徒と共有しようとする。技：熱帯がどの範囲に該当するかを地図で確認することができる思：サトウキビが熱帯で栽培されるために、奴隷が多いという関連性を理解できる |